

平成 2 9 年

第 1 回仙北市議会定例会
教 育 行 政 報 告

仙北市教育委員会

平成 2 9 年 2 月 2 3 日

平成29年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、主な事項について、ご報告させていただきます。

【教育総務課】

◇学校保健総合支援事業指定地域研修会の開催について

1月27日、西木温泉ふれあいプラザクリオンで、文部科学省委託事業の「平成28年度学校保健総合支援事業指定地域研修会」が開催されました。

この事業は、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちの健康課題の解決を図ろうとするもので、指定を受けた西木地区の小中学校4校は、パソコンやゲーム、スマートフォンなどのメディアの使いすぎを抑えて、健康に生活する習慣を身に付けるために、「アウトメディアの取り組みを通じた心と体の健康づくり」に取り組んできました。今回の研修会では、各学校の代表が、お互いに成果と課題を発表し合いました。

当日は、保護者や地域住民の方、学校関係者など、160人を超える方々が来場され、各学校の児童会や生徒会が中心になって行った、ノースマホデーやノーゲームデーを設定した取り組みや、アンケート結果をもとにして立案した改善策が発表されました。いずれの学校の発表にも、自分たちの生活を自分たちで改善していくことに対する熱意が感じられ、来場者からは大きな拍手が送られていました。

研修会では、秋田県教育庁生涯学習課職員による「大人が支えるインターネットセイフティ」と題した講話もあり、児童生徒の自発的な取り組みを大人が支えていくことの大切さを共通理解するよい機会となりました。

この事業の成果は1月25日、秋田市文化会館で行われた秋田県学校保健総合支援事業研修会で、北浦教育文化研究所の鈴木徹(とおる)指導主事が発表しました。当日は、県内外から200人を超える参加者があり、西木地区のアウトメディアチャレンジに対する

取り組みに寄せる大きな関心がうかがえました。

◇全県青少年読書感想文コンクールについて

12月1日、西明寺小学校6年生の、佐藤紋音(もん)さんが、全県青少年読書感想文コンクール「自由読書 高学年の部」で、秋田県教育委員会教育長賞を受賞しました。

紋音さんが読んだ本は、野口健さんの「確かに生きるー落ちこぼれたら這い上がればいいー」で、感想文の題は「自分の名前が肩書きになる生き方」です。感想文には、アルピニストである野口健さんからの、若い人たちへのメッセージを自分なりに受け止め、自分の生き方に自信と責任をもつことの大切さが表現されています。

また、本との出会いを通して、自分自身を見つめ直し、これからの生き方に対する決意にまで高めた点が高い評価を得ました。

教育委員会としては、児童生徒の言語力や思考力、判断力、表現力の育成と、豊かな情操の涵養のために、これまで以上に読書活動の推進に力を入れていきたいと考えております。

◇神代中学校の毎日カップの全国表彰について

12月3日、神代中学校が「第30回毎日カップ『体力づくり』コンテスト」で、優良賞を受賞しました。このコンテストは全国で魅力ある保健体育の授業を行っている学校や、運動習慣の確立に向けて、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいる地域などを対象に、優れた活動を表彰するもので、全国から4,427校が応募し、このうち26校が優良賞を受賞しました。

神代中学校では、学校運営の中に「生徒の体力づくり」を位置付け、全校タイムトライアルや全校なわとび検定を行っている点、保健体育科の授業での取り組みが評価されて受賞に結びつきました。

これらの取り組みは、神代中学校の運動部活動の活躍を支えているものであり、市内のほかの学校にも情報提供され、仙北市の児童生徒の体力の向上や運動習慣の確立に寄与するものとなりました。

◇学校適正配置検討研究委員会の開催について

12月26日、第5回の学校適正配置研究検討委員会が開催され、「学校適正配置に関する提言書」の内容についての最終的な確認が行われました。提言書には「仙北市立小中学校の現状と課題」と「今後の学校教育への提言」という大きく二つの内容が盛り込まれ、「統合の検討に入るべき状況」の項目には、小中学校の学級や学校の規模が一定の基準に合致した場合、統合の検討に入るべきであるということが示されております。

内容確認の後、青柳委員長から教育委員会安部委員長に提言書が提出されました。今後は、この提言書を踏まえて、市内小中学校の適正配置の検討に努めていきます。

◇仙北市子ども議会の開催について

1月12日、仙北市議会議場で第2回仙北市子ども議会が開催されました。これは、平成26年1月9日に開催された第1回以降、3年ぶりの開催でした。

子ども議会は、仙北市の次世代を担う子どもたちが、身近な生活の中から行政や市の課題に興味をもち、その解決方法を共に考えながら、自分たちと市とのよりよいかかわり方に対する理解を深めることを目的に開催されています。また、この体験を通して、仙北市を愛し、地域社会を支える自覚と、高い志をもった仙北市民を育成することをねらいとしています。

今回の子ども議会では、市内の小中学校の代表28人が議場に参集し、「仙北市の未来 ～『小さな国際文化都市』市民が創る誇りあるまち～ を、目指して」をテーマに、三つの提言と9件の一般質問が行われました。

提言には、西明寺小学校の「くりっこサイエンス」の「人と人とのふれ合いを深めるドローンの活用方法」や、秋田県が行っている若杉県政体験への参加報告がありましたが、いずれも、仙北市の将来に対する前向きで具体的な提案でした。

一般質問では、公園整備や地産地消への取り組み、内陸線の活用、防災と避難所、仙北市の医療、これからの農業、空き家・空き店舗の活用、地方創世特区、「小さな国際文化都市実現のために小中学生に何ができるのか」といった内容で、市政全般にわたっての質問と提案がありました。

市長からは、内陸線の活用について「内陸線とドローンを組み合わせたPRについては、ドローン特区の仙北市としては、ぜひ実現したいと考えています。」といった答弁があり、再質問を含めて真剣な質疑応答がありました。

市議会議員の皆様をはじめ、秋田県教育庁義務教育課の上田(うえた)主任指導主事など、多くの方々に傍聴いただき大盛況でした。

仙北市の未来を担う子どもたちに、行政や市の課題について理解と関心を深めてもらう、大変よい機会となりました。

◇仙北市総合給食センター建設検討委員会について

1月13日、第4回目の仙北市総合給食センター建設検討委員会が開催され、「仙北市総合給食センター基本計画」について、その内容等を検討して、承認をいただきました。基本計画に示された施設規模や事業費、事業手法についても時間をかけて内容の確認が行われました。この基本計画は、議員の皆様にもお届けいたしますので、ご指導をお願いいたします。

◇学校給食での「御狩場焼」の提供について

「学校給食記念日」となっている1月24日、仙北市内の小中学校の給食で、佐竹北家伝承の「御狩場焼」が提供されました。

この「御狩場焼」は、かつては、当主が家来衆を率いて狩りにかけた際に、鴨やキジなどの肉類をその場でさばいて、山椒味噌をつけて焼いて食したというもので、佐竹北家の野遊びの様子がしのばれる郷土料理です。

今回の「御狩場焼」は、鶏もも肉を焼き、給食用にアレンジした

山椒味噌を添えて提供されました。

子どもたちは、香ばしく焼けた鶏肉と香りの良い山椒味噌を口いっぱいにはおぼり、郷土に伝わる伝統料理のおいしさを堪能していました。

今回の給食提供は、角館町観光協会から仙北市教育委員会に提案をいただいていたものでしたが、子供たちに、郷土の歴史と伝統の味を知ってもらいたいとの思いで、実現いたしました。

今後も、学校給食のメニューに、地場産物や郷土の調理法などを取り入れ、児童生徒の郷土を大切に作る心を育てるよう努力していきます。

◇中学校スキー大会での活躍について

平成29年1月12日から15日にかけて、第65回秋田県中学校総合体育大会、第60回秋田県中学校スキー大会が八幡平スキー場と花輪スキー場を会場に行われました。

大会最終日の15日に行われた男子スラローム競技では、生保内中学校3年の田口慧(さとき)さんが、2位に5秒以上の大差をつけて優勝し、昨年に続く連覇を達成しました。慧さんは、1月25日から27日に、福島県耶麻郡猪苗代町で行われる第53回東北中学校スキー大会と、2月2日から5日に、山形県最上町赤倉温泉スキー場で行われる第54回全国中学校スキー大会への出場権を獲得しました。

同じ日に行われたクロスカン トリー競技の男子リレー(4人×5km)では、神代中学校2年の平岡恵太(けいた)さん、同じく3年の藤本涼雅(りょうが)さん、樋口優輝(ゆうき)さん、佐々木剛(ごう)さんのチームが見事に準優勝を飾りました。神代中学校チームは、最終4走の佐々木剛さんが、3位の十和田中学校と激しく競い合い、ゴールタイムは、1時間2分39秒3で同タイムとなりましたが、佐々木選手がフィニッシュラインで前にのぼした足が、十和田中よりわずかに速いというビデオ判定の結果、見事準優勝に輝きました。これは、県南の中学校としては、60年の歴史の中で初の快挙とな

りました。

このほかに、クロスカントリー競技、男子5kmクラシカルで6位の生保内中学校3年の千葉駿(しゅん)さんが、東北大会、全国大会に、男子ジャイアントスラロームで6位、スラロームで8位入賞を果たした角館中学校1年の鎌田匠人(しょうと)さんと、クロスカントリー競技、男子5kmクラシカルで7位、同じく5kmフリーで8位に入賞の神代中学校3年の樋口優輝さん、そして、男子5kmクラシカルで9位の藤本涼雅さんが東北大会への出場権を得ました。

1月27日に行われた、第53回東北中学校スキー大会では、男子スラローム競技で、生保内中学校の田口慧さんが1本目、2本目ともにトップタイムを記録し、2位に15秒以上の差をつけて、堂々の優勝を果たしました。

同じ日に行われたクロスカントリー競技、男子リレーに出場した神代中学校チームは、見事4位に入賞しました。アップダウンの激しい難コースでしたが、4人の力走により見事な成績を収めました。

2月3日、山形県最上町赤倉温泉スキー場で行われた、第54回全国中学校スキー大会では、生保内中学校の田口慧さんが男子スラローム競技に出場し、1本目で5位、2本目で1位の好タイムで滑り、トータルタイム1分30秒48で5位に入賞しました。

仙北市の中学生が、雪国ならではの競技で好成績を収めたことは、非常に喜ばしいことであり、教育委員会としても選手の派遣等に対する支援を行っていききたいと思います。

◇仙北市立学校施設天井等落下防止対策事業について

文部科学省からの通知を受けて実施していた、学校施設天井等落下防止対策工事は、小学校3校(中川、生保内、西明寺)と、中学校2校(神代、桧木内)が、2月20日に完成いたしました。工事期間が3カ月から4カ月と長期間を要しましたが、事故等もなく、工事を終了することができました。平成27年度に実施した小学校4校、中学校3校と併せて、市内12校すべての事業が終了し、安

全対策、防災機能の強化を図ることができました。

【生涯学習課】

◇ “奨励員”による大人と子供の生涯学習サポートDAY事業について

12月16日、生保内小学校の5年生37人を対象に、県生涯学習奨励員連絡協議会の補助事業である、「“奨励員”による大人と子供の生涯学習サポートDAY事業」を開催しました。

この事業は、生涯学習奨励員が特技等を生かして講師となり、地域住民が新たに学習活動に取り組む機会づくりのため行われております。当日は、奨励員4人が講師となり、「芸術としての書道体験」、「ビニール紐を使った縄縷い体験」など、4つの体験活動が行われました。1時間半ほどの体験時間でしたが、子ども達は自分がやってみたい活動を1つ選んで、熱心に取り組みました。最初は、なかなか上手に出来ない子ども達も奨励員の方々に優しく指導してもらい、普段出来ない体験を楽しんでいました。この体験が子ども達の心に残り、大人になってからの生涯学習活動のきっかけになればと考えております。

◇ 「仙北市総合美術展」について

「第6回仙北市総合美術展」が、2月7日から19日まで角館町平福記念美術館において開催されました。

市民による手作り美術展として定着してきた今回の美術展には、136人と1グループから絵画、書、写真、工芸、手芸作品など、150点の出品がありました。市民の皆さまが芸術分野で、多岐にわたって取り組んでいる成果を披露していただき、改めて生涯学習の裾野の広さを実感いたしました。会期中は、約600人の来場者が力作を熱心に鑑賞し、また、出品者との交流も図られるなど有意義な美術展となりました。

◇青山学院大学の冬季体験交流会について

昨年11月に、青山学院大学と包括連携協定を締結したことが縁で、2月22日から26日まで、青山学院大学の学生が冬の仙北市を体験する交流会が行われます。

学生8人を含む一行10人は、昨日夕方、仙北市に到着後、門脇市長を表敬訪問していただき、市として大歓迎いたしました。

本日から、市内各地区において、除雪作業体験や武家屋敷、田沢湖、田沢湖高原雪まつりなど、冬ならではの仙北市を体験してもらい、多くの魅力を感じていただければと思います。

今後もこうした交流の輪を広げながら、互いの連携を深めていく企画を増やしていきたいと考えております。

【公民館】

◇新春書き初め大会について

1月6日、角館交流センターを会場に「第12回仙北市新春書き初め大会」が開催されました。

市内の小学生26人、中学生1人、高校生18人、一般2人の合計47人が参加し、さわやかな墨の香りが漂うなか、新年への思いを込め、真剣に筆を運んでおりました。

当日は、角館高等学校書道部の袴姿による書道パフォーマンスが披露され、大きな紙に「新年の祈り込めた詩」を音楽に合わせて書きあげ、その迫力ある筆さばきに会場は大いに盛り上がりました。

清書された作品には、金・銀の各賞が与えられ、1月6日から31日まで、タカヤナギワンダーモール店に展示され、市内外の多くの方々に鑑賞していただきました。

【田沢湖図書館】

◇特別展示「河正雄（ハ・ジョンウン）文庫 収蔵品展」について

2月25日から3月26日まで、「河正雄文庫 収蔵品展」を開催します。

これまで、河正雄文庫に寄贈された書籍・絵画のなかから、特に貴重な韓国語書籍や河氏の著書、また、絵画数点等を改めて市民に紹介いたします。

国内外で高く評価されている「河正雄コレクション」の図録や、様々な紙面で取り上げられている、河氏の美術作品に対する熱い思いを通して、日本と韓国の美の在り方、深い歴史を辿ります。

【学習資料館・イベント交流館】

◇新潮社記念文学館名誉館長 高井有一先生を偲ぶ会について

昨年10月26日に、84歳でご逝去された、新潮社記念文学館名誉館長の高井有一先生をしのぶ会を、1月21日に、関係者60人にご出席をいただき開催いたしました。

しのぶ会では、高橋秀晴秋田県立大学教授から高井有一文学の軌跡について、作家の塩野米松さんと高井有一先生の奥様との対談では、高井先生と奥様の過ごされた歳月について、思い出やエピソードを語っていただきました。また、前角館図書館後援会会長、故高橋雄七さんの奥様からは、高井有一先生と高橋雄七さんとの交友について、エピソードを交えながらお話いただきました。

参加した皆さんからは、今まで知らなかったお話を聞けて、とても良かった、全員で高井有一先生をしのぶことが出来て良かったとの感想をいただきました。

改めて、高井有一先生のご冥福をお祈りいたしたいと思います。

なお、新潮社記念文学館で「追悼館蔵品展～高井有一展～」を3月31日まで開催しておりますので、皆様のご来館をお待ちしております。

◇仙北市読書感想文コンクールについて

学習資料館では、仙北市教育委員会主催、角館図書館後援会後援による、第6回仙北市読書感想文コンクールを開催しました。市内小中学校から昨年より18点多い120点、高校から17点多い4

9点の応募がありました。

今年度から新たに、株式会社新潮社様からご後援をいただき、新潮文庫賞を設けております。2月9日の審査会で入選作品の中から仙北市市長賞、新潮文庫賞、角館図書館後援会長賞、仙北市教育長賞の各入賞が選出され、2月26日に、仙北市総合情報センターで表彰式を行います。

【スポーツ振興課】

◇2017フリースタイルスキー秋田・田沢湖モーグル競技会について

2月4日から5日まで、全国から64人の選手をお迎えし、たざわ湖スキー場を会場にワールドカップの前哨戦であるフリースタイルスキー秋田・田沢湖モーグル競技会が開催されました。

4回目の開催となった今大会は、初日のモーグル競技では濃霧によるスケジュールの変更を余儀なくされましたが、競技開始以降は2日目とも比較的天候にも恵まれ、大きなトラブルもなく無事終えることができました。

懸案とされた雪不足については、コースへ雪の搬入を行ったものの、大会2日前からの降雪、コース整備にあたられた、たざわ湖スキー場職員の尽力により、良好なコンディションでの競技会となりました。また、ワールドカップ仕様のレイアウトや受入体制など、会場全体の最終確認も行いました。

◇2017FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会について

2月18日と19日の両日、たざわ湖スキー場を会場に3回目の開催となるFISフリースタイルスキーワールドカップが開催されました。世界15カ国から選手88人、コーチ等56人の過去最高の144人をお迎えし、18日のモーグル競技、19日のデュアルモーグル競技で熱戦が繰り広げられました。

大会に先がけ、16日には生保内小学校において、大会アンバサダーの上村愛子さんによる食育に関する講演会が行われました。

また、17日の開会式、歓迎レセプション会場を、より多くの子ども達や地域の方々と参加選手との交流の場にしていただくため、たざわ湖スキー場スキーセンター「レラ」に変更し、上桧木内の紙風船上げや、なまはげも登場し、盛大に開催されました。

大会は、2日間延べ8千人の観客が来場し、世界レベルの迫力ある競技に魅了されるとともに、各国選手に温かい声援を送っていただきました。競技は、モーグルでは男女とも、現在世界ランク1位のミカエル・キングズベリー選手、ブリトニー・コックス選手が優勝、デュアルモーグルでは男子が同じくミカエル・キングズベリー選手が3連覇を果たし、ブリトニー・コックス選手とともに今期ワールドカップの総合優勝を果たしています。

中でも、デュアルモーグル決勝トーナメント1回戦で、キングズベリー選手と原大智（はら だいち）選手との対戦が今大会での一番の盛り上がりとなり、原選手は、惜しくも敗れはしたものの、場内が大歓声に包まれるとともに、モーグル競技の醍醐味に多くの観客が魅了されました。

今大会においても、昨年同様、雨に見舞われ、大会前日のスケジュールがキャンセルされるなど、競技自体の開催が危ぶまれはしたものの、競技が行われた2日間は、時折晴れ間がのぞき、正に奇跡的な2日間であったと思います。

大会終了後、FIS関係者からは、この大会のコースロケーションの素晴らしさ、運営や観客を含めたホスピタリティの高さを評価していることや、2018年のオリンピックイヤーでも開催していただきたい旨のお話しをいただいています。

今後、モーグルの聖地に向けて、継続的な大会の開催とキャンプ等の誘致を進めるとともに、更なるモーグル競技への関心を高めていただくために、この地域からの選手の発掘、育成への取り組みを行っていきます。

【文化財課】

◇伝建群防災施設整備事業Bブロックの完成について

国庫補助事業の伝統的建造物群保存地区防災施設整備事業Bブロック工事（契約金額17,496,000円）が、1月31日に完成いたしました。今回の施設整備により、防災ポンプ、配水管の更新、消火栓の新設など、伝建群の防火対策施設が更に充実しました。

◇おやま囃子芸能発表会について

2月11日に、角館交流センターで「おやま囃子芸能発表会」が開催され、14団体が出演しました。

この発表会は、「角館のお祭り保存会」の主催で、おやま囃子の保存・継承を目的に毎年開催しており、今年で22回を数えます。

当日は、歴史ある伝統芸能の囃子や踊りを堪能しようと詰めかけた、750人ほどの観客から、盛大な拍手が送られていました。

なお、発表会終了後、花葉館において、「角館祭りのやま行事」の「山・鉾・屋台行事」ユネスコ無形文化遺産登録を記念した祝賀会を、保存会主催により、土崎神明社、花輪ばやし関係者もお招きし、盛大に開催いたしました。

◇国名勝桧木内川堤のサクラについて

名勝桧木内川堤のサクラについては、ソメイヨシノ花芽食害防止と景観保全を目的として、2月1日から3月2日までの30日間、ウソの有害鳥獣捕獲を角館猟友会に委託しております。

今後、開花まで適正な樹木管理のため、適切な整枝作業も併せて行っていく予定です。

【平福記念美術館】

◇児童生徒県南美術展について

12月3日から1月29日まで、「第39回児童生徒県南美術展」を開催しました。

県南地区の小中学校79校から1,010点の出品をいただき、11月26日の審査会で、特賞23点、奨励賞214点、入選773点が決定しました。

1月21日には、特賞受賞者の表彰式を開催し、賞状と記念品を授与いたしました。審査委員長の佐々木良三秋田大学名誉教授からは、出品作品についての子ども達の表現力や発想に対する詳しい講評をいただきました。

また、12月11日から1月12日まで、角館中学校全校生徒による「お気に入りの角館展」と題した、町内の風景画等の作品展示をしました。

期間中は、家族連れでのご来館者が多く訪れ、児童生徒の力作を楽しんでいただきました。

◇館蔵品・寄託品展について

2月28日から4月12日まで、「館蔵品・寄託品展」を開催します。美術館所蔵作品、寄託作品の中から郷土画人の作品を中心に展示する予定ですが、酉年にちなんで、西宮禮和の「水鳥」（屏風）や春の武家屋敷を描いた森田幸子の「歳月」（額装）などの作品を展示します。平福穂庵・百穂常設展と合わせてお楽しみいただくよう、皆様のご来館をお待ちしています。

以上、教育行政に関する報告を申し上げましたが、引き続き教育行政の基本方針及び主要な施策の概要について申し上げます。